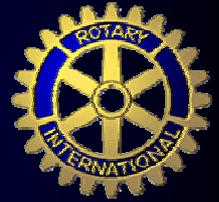


会 報

つくば学園ロータリークラブ



10月13日例会報告

李 宜真様(米山奨学生)卓話



米山奨学生の李 宜真さんが、『「やっぱり違うんだ」。…』
—より良い異文化コミュニケーションを目指して—
の卓話をされました。(後ページに詳細)

曾根久雄様 (米山奨学地区委員)来訪



古本会員 パキスタン地震状況説明



『やっぱり違うんだ。』—より良い異文化コミュニケーションを目指して—

米山奨学生の李 宜真さんの卓話です。

『「やっぱり違うんだ」。…』

—より良い異文化コミュニケーションを目指して—

李 宜真 (リ ギシン)

ご参会の皆さんの暖かいご歓迎を感謝致します。水戸東ロータリークラブにお世話になっている米山奨学生の李 宜真です。現在は、筑波大学地域研究研究科日本語研究コースに在籍しております。今まで何回も貴クラブに国際交流会にお招きいただいたことがありまして、今日もまた卓話訪問という形で皆さんとのご縁が続くことをとてもうれしく思っております。話によりますと、この間、キム ワイン シーさんは世界三大古典と言われる『源氏物語』について素晴らしく卓話をされたそうですが、実は今日は、相当なプレッシャーを感じながら、自分の研究との関わりのあるメインタイトル『「やっぱり違うんだ」。…』、そして、副タイトル「より良い異文化コミュニケーションを目指して」というテーマで、お話をさせていただきたいと思います。それでは、さっそくですが、本題に入りたいと思います。どうぞ宜しくお願い致します。

国際化が急速に進むにつれて、違う国の人々との交流も盛んになっています。同じく地球の住民とは言え、個々の社会・文化には、固有の人間関係の捉え方と相手に配慮する丁寧さに関してそれぞれ基準があります。異文化コミュニケーションを行うとき、他文化における言語形式の認識やその背後に潜んでいる語用論的知識に欠けていると、誤解や摩擦が生ずる可能性があると考えられます。言語学に詳しい方もいらっしゃると思いますが、ここでは、僭越ながら「言語形式」と「語用論」について簡潔に説明させていただきます。まず、言語形式とは、例えば、文型や決まり文句などの表現を指しています。そして、語用論とは、言語表現とそれをを用いる使用者や文脈との関係を研究するものです。具体的な例を挙げてみますと、例えば、大きい音で音楽を聴いている子供に対して「音が大きいよ」と母親が言い、これを聞いて子供は音を小さくしたとします。ここで、「音が大きいよ」という発話は、文字通りには、「ステレオの音量が大きい」ことを述べているにすぎません。しかし、この発話の背後には「音を小さくしなさい」という要請ないし命令の意味を含めて述べられ、また子供もそのように受け止めたのです。すなわち、語用論は発話を対象に、そこに表された話し手の意図、言外の意味などを分析しようとするものです。

後でまた触れると思いますが、物事をはっきり言わずに自分の意図することを相手に察してもらうという日本の「察し」の文化に溶け込むのは、外国人や留学生（私も例外なく悩んでいます）にとっての難題となっています。それに対して、物事をはっきり言うという性格の持ち主である中国人は一般的には図々しい、厚かましいというマイナスなイメージが与えられます。そういった違いの背景には、そもそも両言語における文化的発想にも文法的な表現にも大きな相違点が存在していることが考えられます。したがって、異文化コミュニケーションを円滑に行うためには、相手の国の言語文化に対する認識が必要なのではないでしょうか。

このような素朴な発想から、私は日本語と中国語における言語行動の対照研究に興味を持つようになりました。対照というのは、二つかそれ以上のものを比較し、それらの相違を明らかにすることです。少し話をそらしますが、一介の留学生である私の目から見た、肌で感じた日常生活における日本と台湾の違いを少しお話ししたいと思います。

まずは食生活から見ましょう。日本には「餃子定食」というのがあります。つまり、焼き餃子をおかずとしてご飯とセットにした定食です。日本に来てはじめてその「餃子定食」を見たとき、目から鱗が落ちるほどびっくりして、思わず『「え～世の中にはこんなものもあるんだ。やっぱり違うんだね」。…』と口にしました。なぜかと言うと、台湾では、焼き餃子であれ、水餃子であれ、ご飯と同じく主食として認識されているからです。「餃子定食」は恐らく日本発の食べ物なのではないかと思われれます。もし、台湾にいらっしゃるチャンスがありましたら、レストランでほんと餃子を一緒に注文しないほうが無難です。次に、気分転換のために、ちょっと怖い話をしましょう。「お墓」の話です。この前、米山奨学会の研修旅行に行ってきました。勿論、米山梅吉先生の墓参りにもしてきました。墓参りの後、バスに乗って、私は「よく考えると、日本では街中にお墓がよく見えますね。日本の方々は平気でお墓の隣に住んでいますか？台湾では、お墓は怖い存在で、死者の霊とあまり関わりたくない、なるべく遠い所に置きますよ。例えば、山の中とか」ということを奨学生の仲間同士に話しました。後でそれは日本人の自然観もしくは宗教観にも関係があるからであろうと本で読みましたが、同じくアジアの国で、そして、儒教の影響にも受けているからこそと想ったら、『「やっぱり違うんだ」。…』と考え直しました。

もう一つ『「やっぱり違うんだ」。…』と感じたことについてお話をしましょう。人と人との付き合いのお話です。台湾の面積は三万六千平方キロメートルで、人口は約2千2百万人です。国土は九州ほどしかありませんが、そこで暮らしている台湾の人々が情熱的に友情を非常に大切にしています。初対面の人であっても、まるで長年付き合い合っているような友達のように、気軽に声をかけたり、楽しくお喋りをしたりします。このような環境で育てられてきた私は、最初に日本の方々と同じく付き合ったとき、目には見えない壁があり、どうすればそれを乗り越えられるのかと非常に悩んだのです。言葉ではうまく表現できませんが、人と人との間には「距離」が置かれたような気がします。個人的な経験談で申し訳ございませんが、初対面

(3 ページに続く)

(2 ページから続く)

で熱く扱ってくれないのはもちろん、時間が経ってもなかなか仲の良い友達にはなれませんでした。正直に言えば、「変な外人と思われるかも」と悲観的に思ったことは何回もあります。そして、ある日、飲み会をきっかけに、やっと親友みたいに腹を割って話してくれましたが、翌日学校で会うと、あいさつぐらいは交わされましたが、昨日のことはうそのように風と共に去ってしまいました。「あれ?おかしいな」と思って、留学生同士にその悩みを打ち上げると、皆は同感だと口を揃えました。再び、『「やっぱり違うんだ」。…』と思いました。

ここまででは、『「やっぱり違うんだ」。…』の事例を三つ挙げてきました。実は、あるところにぜひ皆さんのご注意を引きたいと思ひまして。今までの話の中で「ここが変だよ」「もしかして、これかも」と答えをわかっている方はいらっしやいませんでしょか。(しばらく待つ)。それでは、正解を発表します。答えは、『「やっぱり違うんだ」。…』の「…」の部分なのです。異文化コミュニケーションの成否を握る鍵は、紛れもなくこの「…」の部分だと私は考えています。「やっぱり違うんだ」と思って、異なる文化背景を持つ人とのコミュニケーションを回避する人もいれば、「やっぱり違うんだ」と思いながらも、柔軟な姿勢で他文化の相手のことを積極的に受け入れる人もいると思います。つまり、「…」というのは、他文化を理解しようとする姿勢そのものです。要するに、より良い異文化コミュニケーションを目指すためには、柔軟な姿勢が必要なのです。

ちなみに、授業の一環として今年の五月に筑波大学で外国人留学生を対象にした日本語教育実習を行いました。フランス、タイ、韓国、中国、台湾からの留学生に日本語を教える授業でした。日本語の学習だけではなく、茶道・剣道など日本の文化や日本の真の姿などについても触れさせようという観点からカリキュラムを作りました。まさに、先ほど申し上げた「言語形式の認識」と、「語用論的知識の獲得」の実践です。そして、留学生同士のペア練習が多かったため、違う文化背景を持っている相手とのコミュニケーションがほとんどでした。例えば、私の担当した授業の中で、日本における「母の日」はアメリカの影響を受けて、五月の第二の日曜日が母の日なのです。母親に感謝の気持ちを込めてカーネーションなどプレゼントを贈る日ですよと説明し、学生に自分の国における「母の日」についてペア同士で話してもらいました。そのとき、タイ人とフランス人のペアがいて、自分の国の「母の日」について語り始めました。「日本の母の日は五月の第二の日曜日ですね。でも、タイの母の日は8月12日、王妃様の誕生日なんです。そして、カーネーションではなく、ジャスミンの花を贈りますよ」とタイ人の学生はこう言いました。「そうですね。タイの母の日はジャスミンの花を贈りますか。おもしろいですね。フランスの母の日は五月のラストの日曜日です。カーネーションと関係なく、いろんなお花を贈りますよ。いつもいろいろ考えて、母を驚かせます。去年、お花と手紙と、そして、キスも贈りました」とフランス人の学習者は記憶を辿りながらタイ人のパートナーににこにこしながら言いました。二人が会話を楽しんでいるのを見て感じたことは、いかに異文化コミュニケーションを向上するかを考える際、己を知ること、柔軟な姿勢で相手のことを理解しようとするその意欲が非常に重要なポイントになります。

さて、話を戻しましょう。実は、現在私のしている研究は、異文化コミュニケーションを促進することと大変関連のあるものです。様々な言語行動(あいさつ行動、あいづち、ほめ、断り行動、依頼行動)の中で、私は「依頼」を選び、この研究を通して日本語と中国語をそれぞれ母語、または学習言語とする人にとって、異なる文化背景を持つ相手とコミュニケーションを取るときの誤解や摩擦の回避に少しでも役立てればよいと思っているからです。

依頼とは、話し手が自分のためにある行為を行うよう、聞き手に頼む行為です。しかし、そこでは、聞き手は何らかの犠牲を払わなければならない、話し手が益を受け、聞き手は損をする場合が殆どなので、利害の絡む不均衡な行為とも言えるでしょう。そのため、話し手は依頼の内容が聞き手にかける負担の度合い、聞き手との個人的・社会的人間関係、その場の状況などを考慮しながら、最も相応しい依頼表現を選ばなければならないということになります。従来の研究は、中国で使われる中国語を対象としましたが、台湾で使われる中国語における依頼表現の使用実態については、あまり言及されていません。相手に何かやってほしいという目的を達成するために、日本人と台湾人は果たしてどのように依頼するのでしょうか。日本と台湾の依頼表現の使用実態を理解するため、去年、私は身近の大学院の友人を対象に簡単なアンケート調査を行いました。「本を貸してくれるように頼む」という依頼をテーマにし、先生、親しい友人、あまり親しくない友人に対して、それぞれどのような表現を使って依頼するのかを教えてくださいました。以下は、収集されたデータの中の一例です。『すみません、レポートを書くために「〇〇〇〇」という本が必要なんですが、貸していただけませんか。』という表現があり、日本と台湾、各8人ずつ、合計48例を収集しました。

時間の関係上、調査結果を簡単に言うと、日本人大学院生も台湾人大学院生も依頼をするとき、どうして本を借りなければいけないかという状況説明をしたり、なるべく早く本を返すという約束をしたりします。つまり、日本と台湾は相手の実質的または心理的な負担を軽減するために、同じコミュニケーション手段を選択すると言えるでしょう。また、日本人は相手との親疎関係を考慮し、依頼の内容を入れる前に、前置き表現(ちょっとお願いしたいことがあるんですが、今よろしいですか)を多く使うことがわかりました。その一方、台湾人大学院生は親しい友人であれば、相手への依存度の強さの表明(あなたの本によって、生きるか死ぬか決まられているんだ)と交換条件(あなたに感謝するため、晩御飯を奢ってやろう)の表現を用います。すなわち、台湾人は依頼をするとき、自分の意志を相手に押し付け、互恵性を示すなどし、ストレートな頼み方をする傾向があると言えます。それに対して、日本人は丁寧に婉曲な言い方を使うことによって、相手に真意を察してもらいます。調査対象者は数が少ないため、調査結果を一般化するのができませんが、更に詳細に調べてゆくことが今後の課題です。

(4 ページに続く)

(3 ページから続く)

なお、ぜひ皆さんに紹介したいものがあります。それが、『異文化間コミュニケーション入門—国際人養成のために—』(1983)という本から引用したものなのです。チェッコの教育者であるコメニウスという方のお考えだそうですが、異文化コミュニケーションをとるとき、この考えを念頭に置いて柔軟な姿勢<「…」>で実践していただければと思っています。

生まれた国が異なるから、話す言語が違うから、あの問題について意見が異なるので、という理由で人を嫌うのはひどく愚かである。思いとどまってほしい、なぜなら我々は皆、平等であり……。一つの目的—人類の幸福—だけを追求しよう。(西田司他訳、p.292、聖文社)

話が長くなってしまい、申し訳ございません。最後に、この場を借りてお礼を申し上げたいと思います。ロータリー安達の支えがあるからこそ、勉学に専念することができるのです。米山奨学会と支援をしてくださるロータリー安の方々への感謝を胸に、一刻の無駄もなく成果をあげるように力を注いで頑張りたいと思います。今後とも、ご指導、ご鞭撻をくださいますようお願い申し上げます。

以上。ご清聴、どうもありがとうございました。

ビジター

曽根 久雄 様	米山奨学地区委員
李 宜真 様	米山奨学生

ニコニコBOX

曽根 久雄	学園RCの皆様とあってほんとによかったと思っています。これからも米山記念奨学会のご支援よろしくお願い申し上げます。 (地区米山委員)
佐藤 裕光	早朝ゴルフから一変して終日へ、朝6:30~午後3:30、昼食はおにぎり4ヶとペットボトル3本延べ9時間頑張りました。シングルめざして。次はトライアスロンか。。。
古本 捷治	パキスタン地震に心を痛めています。あのようなひととなつこい人々と、一緒に遊んだ子どもたちの無事を祈っています。
本日の合計	¥12,000-
本年度累計	¥384,000-

出席率

会員数	出席数	欠席数	無届欠席数	出席率
61名	41名	21名	4名	67.21%

ライラセミナーに参加して

平成17年10月17日 井田 充夫

平成17年10月14日（金）から16日（日）まで茨城県中央青年の家にてライラセミナーが開催され参加してまいりました。ロータリーが新世代の人達に立派な後継者になってもらう為の奉仕活動の一環で、72名の若人と36名のロータリアンが参加して2泊3日の研修が行われました。テーマは、水保全、国際理解、社会力、そして萩原ガバナーの講話から識字率の向上が加えられ、4テーマを8、9人のグループで話し合うことになりました。つくば学園ローターアクトから5名、米山奨学生8名、各企業から16歳～37歳の年齢幅が集まり、同じテーマについて自分の意見を語り合いました。最終日の1時から、模造紙3枚にまとめた資料を掲げながら、リーダーからまとめの発表を行いました。各々をどう解釈し全体をどうまとめるか、8グループは各々の認識と表現で発表しました。閉講式で清水研修委員長より8グループの総評があり、「若い人の感覚をロータリアンももっと学び、コミュニケーションを深めて行かなければならない」という言葉で研修は終わりました。参加者の顔には満足感を感じました。知らない同志が2泊の研修で、いろいろな話をしこんなに深く友人になれる。わからないなりに皆でテーマを掘り下げどう発表しどう表現するかを行い、8グループ全てが、まとめ発表ができました。各々の心に人生の1ページをしっかりと書き込み、良い人生を生きるきっかけになった事を確信し、3時に解散していきました。

国際ロータリー第2820地区
2005-2006年度

第26回



Rotary Youth Leadership Awards

ロータリー青少年指導者育成プログラム

委員長
カール・ヴィルヘルム・ステンハマー

2005-2006年度
国際ロータリーのテーマ



超我の奉仕

(主 催)
第2820地区地区RYLA実行委員会
(ホストクラブ)
第2820地区土浦ロータリークラブ

ライラセミナー参加者推薦のお願い

2005-2006
国際ロータリー第2820地区
ガバナー 萩原 亢雄

ロータリーは常に新世代がすくすくと育ち、立派な後継者となってくれるための奉仕を行ってきました。又、実際にこれらの奉仕プログラムによって多くの青少年たちが育ち、日本でして世界各国で頼もしい外交官として、また多種多様な分野において活躍し社会に多大な貢献を果たしていることは、我々の誇りとするところではあります。

本年度テーマ「超我の奉仕」は私達の世代のみで成し遂げ終えることは到底できるものではなく、社々に続く世代に、そして更にその後継に続く世代へと託されるべき使命であり、その際にも我々の世代がしっかりと新世代の成長を支えることが極めて重要で、そして、その新世代が立派に社会貢献を果たしていくことが、ロータリアンが「超我の奉仕」を果たすことに繋がり、世代を踏えたロータリアンの輪が無限に広がってゆくと思うと、なんとも心強くありませんか。

勿論、新世代プログラムは私達ロータリアンが新世代を一方的に支援すれば済むというものではありません。支援を受ける側の新世代に、我々の思いを受け止め、次世代に引き継いでいこうという積極的な意思と努力が求められます。すなわち、プログラムを推進する過程は、我々と新世代との共同作業であるべきなのです。その過程において我々も新世代から多くを学ぶことができるはずです。

本年度テーマとして
【水保全】【国際理解】【社会力】
と致しました。

ROTARY INTERNATIONAL
DISTRICT 2820



第26回ライラセミナー日程表

	10月14日 金	10月15日 土	10月16日 日
6:00			
7:00	起床・洗面	起床・洗面	朝の集い・挨拶
8:00	朝食 (前日宿泊者)	朝 食	
8:30	登録受付	開校・各持ち物整理	
9:00	開講式		研修活動
10:00	ワークショップ		グループ ディスカッション (まとめ)
11:00	ガバナー講話 生活の知恵		
12:00	昼 食	昼 食	
13:00		講演会	全体集会 (グループ発表)
14:00	見学者受付		閉講式 修了挨拶と・解散
15:00	見学者集合 茨城県県庁・茨城 環境科学センター 見 学	グループ ディスカッション	
17:00	セミナー受付	バーベキュー 入 浴	
18:00	夕食・入浴		
19:00	自己紹介		
20:00	フリー ディスカッション	グループ ディスカッション	
21:00	国際理解 国際交流		
22:00	就 寝	就 寝	

10/13日 ワイン同好会

10/13日、ワイン同好会が「ワインサロン ル・ドサージュ」にて開かれました。

出席は12名でした。私など例会の出席よりこの会の出席のがいいねと皆様に散々からかわれました。

ホストの上野同好会会長に用意して頂いたテーブルに着席。7:00pmより会長と吉田ソムリエがプランされた「フランスワインと新世界のワインのテイストの違い」というテーマ。何か難しそう？ 平たく言うとオーストラリア、ニュージーランド、チリなどで栽培された同品種のブドウから作られたワイン（同じ位の格付けで価格がヨーロッパワインより30~40%OFF）と本家フランスワインとの味比べ。フランスの石だらけの畑のブドウでしか繊細な味は作り出せないのか？今回は白1種類、赤は軽めと重めの2種類で計6種類、テーブルの上に6脚のグラスが用意されてました。まず、白の代表格シャルドネ品種のシャブリとオーストリアワインのテイスティング、各位交互にグラスを交換して、味比べ。さすがI氏が一番最初に、オーストリアはドライ性（酸味）が弱い。俺は嫌いだ。会長曰く「I氏はレベル高すぎ」なるほど、このワインでは、パリの生カキは生臭くてダメ、でも、オーストリアの大きいミルクィなカキのグラタンには合うかも。会長に質問したらOKのご返事。でも、フランスワインのが私にも美味しかった。このようにして楽しい一夜を過ごさせていただきました。会長とソムリエ、並びに楽しい仲間感謝いたしました。

鬼沢善則

テーマ 「フランスワインと新世界のワイン」

シャルドネ

2001 Chablis Olivier Leflaive ¥4,980-

2003 Wynns Coonawara Estate Chardonnay ¥4,480-

シラー&グルナッシュ

2001 Cotes du Ventoux Chateau Pesquie Cuvee des Terrasses ¥4,980-

2002 Paul Conti Grenache Shiraz ¥4,480-

カベルネ・ソーヴィニオン

1998 Chateau Les Hautes de Pontet ¥8,800-

2000 Coldstream Hills Briarston ¥6,480-



Wine Salon Le Dosage (ワインサロン ル・ドサージュ)

10/15日 2820地区親善野球大会



10月15日、午前9時より筑西市、鬼怒川緑地公園にて2820地区親善野球大会が開催されました。

参加チームは7チーム、我がクラブは選手不足の為、土浦クラブと合同チームを編成、第一試合を友部・笠間クラブの編成チームと対戦、一進一退の好ゲームになり予断を許さない状況、最終回逆転の夢かなわず負けてしまいました。

前日が雨だったこともあり、中止だろうと遅くまで飲酒した選手が多く、最後に自力の差が出てしまいました。当クラブの中山幹事・富田会員の活躍は目覚しく、打撃守備に大活躍でした。

綿引会員は力投しましたが、打撃面は不発、私は止まっているボールしか打てません。がっかりです。

下 村 正



プログラム 予告

- 10月20日(木) ガバナー公式訪問 オークラ3F (ジュピターの間)
(12時15分集合)
- 10月26日(水) に変更(夜の移動例会) つくば市内3クラブ合同例会
PM7:00~ グランド東雲
- 11月 3日(木) 休 会(祝日の為)
- 11月10日(木) 理事会 11:00~ 新館アネックス2F有明の間
20周年実行委員会 増山 栄 実行委員長
会場変更:新館アネックス1F 昴西の間

■編集後記■

先日、2度目のワイン会に参加しました。正直、美味しい、グット、まいう〜×2が感想の私。感性の鋭いワイン通の鬼沢会員に感想をレポートしていただきました。ありがとうございました。

ゆうこう クラブ会報委員長 佐藤 裕光

李 宜真(リ ギシン)さんの卓話にもあったが、異文化のコミュニケーションほど難しいものは無い。17日の小泉総理靖国神社参拝に関し、今回も多く批判を受けているが、この事はあえて異文化を否定し批判するように思える。精神文化的な面を問題にし批判して、物理的な驚異や利益の問題から矛先をずらす手段に、国も国民も踊らされている。せめて私達は、異文化を理解し認める事の出来る寛大な意識と、物質的な実のある貢献を続けて行きたい。

クラブ会報委員 齊藤 修一

例会日 木曜日 12:30~13:30

例会場 「オークラフロンティアつくば」つくば市吾妻1丁目1364-1

ホームページもご覧下さい
<http://www.46gama.com/>

つくば学園ロータリークラブ

〒305-0047

茨城県つくば市千現2丁目1番6 つくば研究支援センターA28

電話 029-858-0100

FAX 029-858-0101

Email:gakuenrc@axel.ocn.ne.jp



超我の奉仕